

令和7年度 徳島県立城東高等学校 学校評価 総括評価表

本年度の具体的目標

① 人権教育の充実

ア 人権尊重を柱にすえた教育活動を推進する イ 自他を大切にする心や態度を育成する ウ 家庭への啓発活動を推進する エ 学校の教育活動全体を通じて道徳教育を展開する

② 学習指導の充実

ア 学習意欲を引き出す指導体制・指導方法の工夫・改善を図る イ 探究活動を通して主体的に学習に取り組む態度の育成を図る
ウ 学習指導要領の趣旨に即した授業改善を図る エ ICTを効果的に活用した個別最適な学習、協働的な学習を推進する

③ 進路指導の充実

ア 企業研修等を通じて生徒一人一人の勤労観・職業観の育成を図るとともに、夢や目標を明確にさせる
イ 生徒一人一人の学力や適性、興味・関心に応じたきめ細やかな指導を充実させる
ウ 進路実現のために必要な情報を迅速かつ的確に収集し、組織的・計画的な指導を行う

④ 生徒指導の充実

ア 社会の一員としての正しいルール・マナーを習得させ、基本的生活習慣の確立を図る イ 良好な対人関係を構築できる社会性を育み、いじめを未然に防止する態勢を整える
ウ 生徒との信頼関係を確立し、家庭との連携を図り、個に応じた生徒指導を展開する

⑤ 特別活動の充実

ア ホームルーム活動・生徒会活動を活性化させ、自主性や実践的な態度を育成する イ 部活動を通して、協調性・責任感・連帯感などを育成する
ウ ボランティア活動の機会を取り入れ、豊かな人間性を育てる

⑥ 健康教育の充実

ア 正しい生活習慣等の健康増進についての指導を行い、心身の調和的発達を促進を図る イ 一人一人に応じた特別支援教育の推進を図る
ウ 教育相談活動の一層の充実を図る

⑦ 環境教育・安全教育の推進

ア 環境問題への意識高揚と環境学習の推進を図る イ 校内外の環境美化活動を推進する ウ 防災教育を推進し、災害時の実践力を育成する

⑧ 主権者教育・消費者教育の推進

ア 政治や選挙への関心を高め、有権者として必要な政治的素養の育成を図る
イ 成年年齢18歳に対応し、消費者被害等の危機を自ら回避できる能力を育成する ウ 持続可能な社会の実現に寄与する消費生活を実践できる能力を育成する

⑨ 読書活動の推進

ア 生徒の望ましい読書習慣の形成を図る イ 生徒の自主的な読書活動を推進する

⑩ グローバルな活動につながる教育の推進

ア 異文化理解学習を通じて、国際協調の精神の涵養を図る イ 国際社会の中で主体的に生きる能力や課題を解決する力の育成を図る

⑪ 開かれた学校づくりの推進

ア 教育活動の積極的な公開を推進する イ ホームページ等を利用しての積極的な情報発信を推進する
ウ 学校運営協議会等を利用し、PTA・同窓会・地域社会との連携を図る

⑫ 持続可能で信頼される学校づくりの推進

ア 校務運営体制の効率化と充実を図る イ 教職員のコンプライアンス意識の高揚を図る ウ 校内外の研修を通じて指導力の向上を図る

1 人権教育の充実

重点目標	評価指標（と活動計画）		評価		次年度への課題と 今後の改善方策
	評価指標	評価指標による達成度	評定	総合評価	
①人権尊重を柱にすえた教育活動を推進する。 ②自他を大切にす心や態度を育成する。 ③家庭への啓発活動を推進する。	① 人権尊重の精神が息づく学校の雰囲気ができていると生徒が回答した割合 95%以上 ② 主体的に人権の学習ができたとする生徒の割合 95%以上 ③ 生徒に人権意識向上のための指導が適切だと回答した保護者の割合 90%以上	① 87.5% ② 88.5% ③ 89.1%	B B B	(評定) B	全ての生徒に主体的な取組を促し、その実感を持ってもらうためには、現行の行事の充実はもちろんだが、日常的な人権意識や差別をなくすための具体的な行動につなげる必要がある。今後は各教科やホームルーム活動、総合的な探究の時間との連携を主軸に、全ての生徒が主体的に取り組めるような仕組み作りを努めたい。また、学校公開の日や配布物を用いた保護者への働きかけも強めていきたい。
	① 「人権週間」年3回以上実施する。 「人権講演会」など年1回以上実施する。 「校内意見発表会」年1回以上実施する。 その他、適切な啓発行事を実施する。 ② 「人権問題ホームルーム活動」年4回（3年は3回）実施する。 「人権職員研修会」年3回実施する。 ③ 「人権新聞」等、人権教育課からの啓発文書を年3回以上保護者に送付する。 「生命の安全教育」に関するホームルーム活動を年1回以上実施する。	① 「人権週間」を5月・10月・2月に実施したほか、11月には「人権月間」を実施した。「人権講演会」・「人権意見発表会」は、11月にそれぞれ1回ずつ実施した。 ② 「人権問題ホームルーム活動」も予定通り実施できた。 ③ 「人権新聞」は、年度末に人権委員会（いじめ防止委員会）とともに作成し、配付する予定である。「生命の安全教育」のホームルーム活動も実施することができた。	(所見) 生放送となった人権意見発表会や、人権作品の作成など、生徒の主体的な活動は活発に行うことができた。 人権講演会では子ども食堂を運営する喜多條雅子さんの講演を実施した。生徒の反応も良く、子どもの人権や障害者雇用について深く考えるきっかけとなった。人権新聞については、作成日程調整がうまくいかず、一回にとどまった。	学校関係者の意見 講演を聞いて、生徒が早速ボランティア活動に参加したことは素晴らしい。今後はいじめ問題やグローバルな視点からの人権問題、例えば、肌の色、宗教、言語等による差別問題についても取り組んで欲しい。	

2 学習指導の充実

重点目標	評価指標（と活動計画）		評価		次年度への課題と 今後の改善方策
	評価指標	評価指標による達成度	評定	総合評価	
①生徒の学力向上のために、授業力の向上や指導方法の工夫・改善を図る。 ②学習指導要領の趣旨をふまえた教育課程の修正を図る。	① 「指導方法や指導内容を工夫するなどして学習のための効果的な動機づけをしている」の肯定的回答が85%以上 ② 「(1年)1年次に幅広く進路について考え、2年からコース選択する方法は適切である。(2・3年生)現在自分が所属しているコースは、自分の希望する進路に適している。」の肯定的回答が90%以上	① 肯定的回答 92% ② 肯定的回答 91%	A A	(評定) A	今年度の学校評価アンケートの評価指標における生徒の肯定的回答率は目標数値を超え、一定の成果が上がっていると思われるが、肯定的な回答率がより上がるように、生徒の知的好奇心をくすぐることができるような指導方法や内容を模索していかねばならない。ただ、今年度は同教科の教員を隣席に配置したこともあり、教科指導や内容に関する相談や話し合いが頻繁に行われており良い状況であると思われる。1年次のコース選択においては昨年度より考える時間を長く確保したが、全員が肯定的回答になることを目指して、そうした機会をより大切にしていきたい。
	①-1 相互参観授業週間を年間2回設定し、授業力向上に向けて効果的な取組を研究・共有する。 ①-2 校内外の教科研究会に積極的に参加し、指導方法や内容を研究する。 ②-1 教育課程検討委員会を中心に、教育課程やコース選択の諸課題を議論し、その修正を図る。 ②-2 学習指導要領の趣旨をふまえた指導と評価の一体化を目指し、各教科で年間評価指	①-1 相互参観授業週間を5月と11月の2回、各3週間ずつ実施し、取組を共有・研究することができた。 ①-2 同教科の教員で話し合う機会が多く持て、指導方法を相談・共有することができた。 ②-1 教育課程検討委員会において活発な議論を行い、諸課題を検討することができた。	(所見) 学習意欲が高く、授業に対しては前向きな気持ちで取り組んでいる生徒が多いので、その意欲を更に高め、主体的な学習活動を促すことができるように、指導方法や指導内容の改善を図り続けなければならない。 教育課程に関しては、昨年度と大きな変更点はなかったが、編成に向けて慎重	学校関係者の意見 学習時間の長さだけでなく、学習内容や学習方法の改善も大切であると	

	導計画を協議・立案する。	②-2 各教科で年間指導計画を策定し、それに基づき指導と評価を展開することができた。	に検討することができた。より良い教育課程を目指し、取組を続けていかなければならない。	考える。ほぼすべての生徒が大学進学をする学校の実情に照らし合わせ、進路実現のための学習にとどまらず、生涯学習を促す学習指導をお願いしたい。
--	--------------	--	--	---

3 進路指導の充実

重点目標	評価指標（と活動計画）	評価		次年度への課題と今後の改善策
	評価指標	評価指標による達成度	評定	総合評価
<p>① 生徒一人一人の勤労観・職業観の育成を図るとともに、夢や目標を明確にさせる。</p> <p>② 生徒一人一人の学力や適性、興味・関心に応じたきめ細かな指導を充実させる。</p>	<p>① ・キャリア・パスポートを活用していると感じる生徒・教員の割合 85%以上 ・探究の見方・考え方を活用していると感じる生徒・教員の割合 70%以上</p> <p>②_1 ・生徒の学習時間（1日あたり）3時間を超える生徒の割合 70%以上</p> <p>②_2 ・東京大、京都大 合格者数 10名以上 ・医学部医学科 合格者数 10名以上 ・難関10大学 合格者数 40名以上 ・第1希望先に進路決定できる生徒の割合（大学・学問系統） 70%以上 ・校外模試偏差値70以上 40名以上 偏差値60以上 140名以上</p>	<p>① 肯定的評価 【キャリア・パスポート】 （生徒）自分自身を振り返るよい機会となっている 64.7% （生徒）結果をもとに、教師は面談をしている 78.0% （教員）生徒の「キャリア・パスポート」を確認し、進路指導や面談に活用している 71.8% 【探究の見方・考え方の活用】 （生徒）他の教科の授業や学習で活用する機会がある 65.3% （教員）総合的な探究の時間以外での教科の授業や特別活動等教育活動で活用する機会がある 64.1%</p> <p>②_1 49%</p> <p>②_2 ・東京大、京都大 合格者数 10名 ・医学部医学科 合格者数 17名 ・難関10大学 合格者数 32名 ・第1希望先 67.7% ・校外模試偏差値70以上 37名（2年） 44名（1年） 偏差値60以上 129名（2年） 154名（1年）</p>	<p>C</p> <p>C B</p>	<p>（評定）</p> <p>B</p> <p>各教科で観点別評価のために振り返りをさせる教科が数多くあり、キャリア・パスポートの振り返りと重複している部分があるので、どちらかに集約するなど、記載内容の改善を行ってきたい。また、記入しながら自身を振り返るために、前回の記入内容を見直す等の十分な時間が必要である。指導案や実施手順をより明確に示したい。 探究の見方・考え方は、「～探究」の科目で活用されているはずだが、実際は名称だけで活用される機会（場面）が少ないのではないかと考える。また、総合的な探究の時間内でも、文献調査や仮説設定が不十分なまま実験やアンケートに移行するケースが多く見られた。調査・分析の手法を身に付けることが他教科での活用を増やすポイントでもあるので、指導上の工夫をしていきたい。 学習内容や学習時間を記録することの大切さを節目節目で話し、より多くの生徒が、自ら学習を進めるためのきっかけとなるような講演会、講座を引き続き考える。講座については難関大向けだけでなく、共通テスト向けなど多くの生徒が参加できる講座も企画していきたい。</p>
	活動計画	活動計画の実施状況	（所見） キャリア・パスポートについて、「自身を振り返る機会となる」割合は減少した。 （生徒 R6:68.4%→R7:64.7%） 探究の見方・考え方を他の教科等で活用していると感じる割合は減少した。 （生徒 R6:68.2%→R7:65.3%） （教員 R6:71.4%→R7:64.1%） 平均学習時間は3.5時間。入力率に個人差やクラスでの差がある。進路検討会や難関大希望者対象模試、学	
	<p>① ・教員がキャリア・パスポートを活用して対話的に生徒と関わるキャリア・カウンセリングの機会を年3回実施する。 ・総合的な探究の時間で、探究のサイクルを意識した取組を各学年2回以上実施する。</p> <p>②_1 家庭学習時間調査を学習支援クラウドサービスを活用し、毎日実施する。</p> <p>②_2 徳島大学等の体験授業や物理チャレンジなど各種コンテストへの参加を推奨する。 ・東京大学金曜講座の生徒への周知を行い、参加を推奨する。 ・進路検討会を3学年で年4回実施する。 ・難関大希望者対象模試を各学年2回以上実施する。 ・学力テストの講評を全学年で延べ11回</p>	<p>① ・各学期に1回、キャリア・パスポートを活用した面談の機会を設定した。 ・1年生で2.5回（ガイダンスと企業研修） 2年生で2.5回（課題研究） 3年生で1回（課題研究） の計6回を計画して実施した</p> <p>②_1 学習時間調査を毎日実施した。</p> <p>②_2 進路検討会3学年で4回実施 ・難関大希望者対象模試を各学年で3回実施 ・学力テストの講評を全学年で延べ11回配布</p>	<p>学校関係者の意見</p> <p>キャリアパスポートの有用性を高めるため、生徒・保護者・教職員の共通理解をはかる方を促進していただきたい。 進路指導については十分なできると判断する。偏差値の高い大学への進学が評価指標とならざるを得ないが、生徒一人一人の適性、興味・関心に応じた多様な選択肢を提供して欲しい。</p>	

	配布する。		カテストの講評については予定通り実施することができた。
--	-------	--	-----------------------------

4 生徒指導の充実

重点目標	評価指標（と活動計画）		評価		次年度への課題と今後の改善策
	評価指標		評価指標による達成度	評定	
① 社会の一員としての正しいルール・マナーを習得させ、基本的生活習慣の確立を図る。 ② 良好な対人関係を構築できる社会性を育み、いじめを未然に防止する態勢を整える。	①-1 服装・頭髪が守れている割合 95%以上 ①-2 挨拶が身につけている割合 85%以上 ①-3 ルール・マナーを守っている割合 95%以上 ② いじめを未然に防止するための積極的な取組（面接・アンケート 2回）	①-1 生徒 88.0% ①-2 生徒 82.1% ①-3 生徒 90.4% ② アンケート2回（9月・2月）定期的に面接実施	B B B A	(評定) B	服装・頭髪については、生徒会からの呼びかけや相互チェック等を継続し、定期的に服装頭髪指導を計画して、身だしなみ指導の向上に努める。生活委員による駐輪マナーアップや挨拶運動等を継続する。朝夕の挨拶だけでなく、休み時間等の挨拶も自然に行えるよう、教員からも働きかけ、意識の高揚に努めたい。携帯電話・スマートフォン利用や薬物乱用防止教室、交通安全教室等の講演会も継続して行い、安全教育・マナー教育に努めたい。
	活動計画	活動計画の実施状況	(所見)	学校関係者の意見	
	①-1 各学年での服装・頭髪指導を充実させる。(年3回) ①-2 生活委員による挨拶運動、駐輪場のマナーアップ運動を各学期それぞれ1回実施する。 ①-3 交通マナーアップ運動、携帯電話・スマートフォン講演会、薬物乱用防止教室等を通じて、全校生徒に社会のルールを守ることやマナーについて指導を行う。 ② クラス分析会を定期的に開催し、生徒の状況等について情報交換を行う。アンケートを活用し、生徒の状況把握をする。重要な対策等が必要なときは、いじめ防止等対策委員会を開き協議を行う。	①-1 各学期のはじめに学年毎に行った。(年3回) ①-2 各学期に生活委員が挨拶運動及び駐輪場のマナーアップ運動を行った。 ①-3 携帯電話・スマートフォン講演会(4月)、交通安全教室(7月)、薬物乱用防止教室(12月)、を行った。 ② 学年毎にクラス分析会を行い、生徒の情報共有が行われた。	服装・頭髪や挨拶、ルール・マナーについての達成度は全て評価指標に達成することができなかった。生活委員による挨拶運動、駐輪場のマナーアップ運動を年6回(学期に2回ずつ)実施した。学校生活についてのアンケートを9月・2月に実施し、面接週間等を利用して担任とのコミュニケーションがとれるようにした。	社会のルールやマナーを守ることの大切さを、生徒自らが気づき実行できるようにコミュニケーションを十分にとりながら指導して欲しい。同時に、ルールが適正なものであるかどうか、生徒を含めて定期的に検証していくことが大切であると考えている。特に、グローバル化の進展や、海外からの留学生を多教受け入れている現状を踏まえ、外見的な統一の是非を検討することも重要であると考えている。	

5 特別活動の充実

重点目標	評価指標（と活動計画）		評価		次年度への課題と今後の改善策
	評価指標		評価指標による達成度	評定	
① ホームルーム活動・生徒会活動を活性化させ、自主性や実践的な態度を育成する。 ② 部活動を充実させる。	① 生徒会活動が活発である割合 95%以上 ② 部活動の充実度 85%以上	① 生徒 90.8% ② 生徒 96.8%	B A	(評定) A	生徒会活動の可視化をより一層推進するとともに、部活動では「文武両道」を実践できる環境作りに努め、充実度を上げられる取組をしていきたい。
	活動計画	活動計画の実施状況	(所見)	学校関係者の意見	
	① ・生徒会活動や学校行事への積極的参加を促す。 ・朝の挨拶運動を始め、生徒会による学校の活性化を図る。	① ・生徒会が主体的に学校祭、球技大会等の企画・運営に携わった。 ・生徒会役員で朝の挨拶運動を定期的に行った。	生徒会は例年同様の活動を行うことができた。部活動では、文化部・運動部ともに活発に活動し、種々の大会において、多く	生徒会活動・部活動ともに活発であ	

	②・部活動と学習面との両立を図る。 ・短時間で効率のよい活動を心がけ、各々の目標の達成を目指す。	②・「文武両道」の実現を目指し、部活動活動方針を踏まえた短時間で効率のよい活動を行った。	の部が上位の成績を収めた。	る。教職員の負担軽減にも配慮をお願いしたい。
--	---	--	---------------	------------------------

6 健康教育の充実

重点目標	評価指標（と活動計画）		評価		次年度への課題と今後の改善策
	評価指標		評価指標による達成度	評定	
①望ましい生活習慣等の健康増進についての指導を行い、心身の調和的発達を促進を図る。 ②一人一人に応じた特別支援教育の推進を図る。 ③教育相談活動の一層の充実を図る。	①・「保健だより」の発行回数 12回以上 ・望ましい生活習慣の実践に向けた情報発信を行った回数 6回以上 ②・必要に応じ、ケース会議を行う ③・親身になって生徒の悩みや相談に応じてくれる割合 85%以上 ・保健室の生徒への応急処置や心の悩み等への対応の良好の割合 80%以上	①・14回 ・8回 ②・必要がなかった ③・91.4% ・95.9%	A B A	(評定) A	情報発信について、高い評価を受けている。「保健だより」や保健委員の活動をとおして、生徒の健康に対する意識を向上させる取組を継続していきたい。 保健室の生徒への対応についても高い評価を受けている。今後も心と身体のサポートの充実を行っていきたい。
	活動計画 ①・保健委員会での生徒の自主的活動を推進する。 ・文化祭での展示等により、健康増進への啓発を図る。 ・各教科・各課と連携し、生活習慣の改善を図る。 ・「保健だより」を12回以上発行し、健康増進について興味・関心を深める。 ②・各学年会を利用して、気になる生徒についての情報交換を定期的実施し、心身や生活面、学業などについて悩みや問題を抱えている生徒を早期に発見し、ケース会議等を持ち、適切な支援を行う。 ③・カウンセラーや専門機関と連携した教育相談活動を充実する。	活動計画の実施状況 ①・保健委員は、手洗い石けん液やアルコール消毒液の点検・補充、車いすやAEDの点検、体育祭や球技大会の救護など行った。 ・文化祭では、保健委員が中心となり、「病みかけたそのココロに局所麻酔」をテーマに、健やかな心であるためにできることについて調べ、生徒への啓発を行った。 ・「保健だより」は13回発行した。 ②・学年会での情報交換に加えて保健室やスクールカウンセラーとの連携により、生徒への早期の支援を行った。 ③・教育相談の開設は17日である（1月27日現在）。	(所見) 保健委員は当番制で定期的に活動し、決められた仕事を責任を持ってこなすことができた。文化祭の展示など積極的に参加できた。一人一人の生徒が健やかな学校生活を継続していくために、日頃の情報交換を密に行い、早期の対応を行うことができた。特別な支援が必要であると考えられる生徒に対するケース会議では、専門的助言をもとに適切な支援につなげることができた。 スクールカウンセラーに定期的に教育相談を行っていただき、様々な悩みや困難を抱える生徒や保護者に対して継続的に支援ができた。	学校関係者の意見 心の悩みへのサポート体制が整っており評価できる。引き続き、表に出にくい健康状態への配慮をお願いしたい。また、教職員へのメンタルサポートやメンタルサポートに関する教職員研修の機会も確保して欲しい。徳島県の生徒は肥満度が全国的平均に比べて高いので、学校の実情に合わせて、日常の食生活への関心を高める指導もお願いしたい。	

7 環境教育・安全教育の推進

重点目標	評価指標（と活動計画）		評価		次年度への課題と今後の改善策
	評価指標		評価指標による達成度	評定	
①環境問題への意識高揚と環境学習の推進を図る。 ②防災教育を推進し、災害時の実践力を育成する。	① 換気や環境美化活動に積極的に取り組んでいる割合 85%以上 ②-1 防災訓練の実施回数 2回 ②-2 心肺蘇生法の技術を習得する。	① 78.7% ②-1 5月と10月に防災訓練を実施した。 ②-2 1年生全員および教職員を対象に心肺蘇生法の講習会を実施した。	B A A	(評定) A	「清掃活動」へは8割以上が取り組んでいるものの、「環境美化」への自主的な意識と行動力の向上が課題である。防災意識は高まっているため、今後はより実際を想定した訓練を行い、減災対策を一層努めたい。

活動計画	活動計画の実施状況	(所見)	学校関係者の意見
① 換気や節電・節水を呼びかけ、定期的に環境委員による校内美化活動を実施する。 ②-1 防災訓練の実施においては、避難経路や関係教員の役割の確認を行う。 ・災害時の備蓄品等の確認をする。 ②-2 教員・生徒への心肺蘇生法の講習会をそれぞれ1回以上実施する。	① 環境委員による環境アクションを学期ごとに実施した。 ②-1 5月に火災を想定した訓練、10月に地震津波を想定した訓練を実施した。 ②-2 1年生全員および教職員を対象にした講習会を7月に実施した。	美化環境を生徒相互に確認し合うことで自主的な美化環境意識の向上を目指した。 避難訓練後のアンケートから生徒自身が防災に対し意欲的で、備えの必要性を切実に感じていることが確認でき、今後のさらなる減災活動を実施していきたい。	「防災クラブ」の活動など、生徒主体で防災教育が推進されていることが評価できる。全体的に生徒が集まっていることから、通学途上の防災や家庭との連携を図った防災教育を検討して欲しい。

8 主権者教育・消費者教育の推進

重点目標	評価指標（と活動計画）		評価		次年度への課題と今後の改善方策
	評価指標	評価指標による達成度	評定	総合評価	
① 政治や選挙への関心を高め、有権者として必要な政治的素養の育成を図る。 ② 成年年齢の引き下げに伴う消費者トラブルの防止につなげることを目的に、消費者被害等の危機を自ら回避できる能力を育成する。 ③ 持続可能な社会の実現に寄与する消費生活を実践できる能力を育成する。	①-1 公民科の学習内容に興味・関心の高い生徒の割合 90%以上 ①-2 新聞を読む習慣のある生徒 70%以上 ② 「契約トラブルと消費者保護制度について理解できた」と回答した生徒の割合 95%以上 ③ 「持続可能な社会のあり方について考え、実際に行動に移すことができた」と回答した生徒の割合 85%以上	①-1 公民科の学習内容に興味・関心のある生徒は83.2%で、昨年より0.4ポイント上昇した。 ①-2 3年生「政治経済」選択者を対象にした調査では、新聞を読む習慣のない生徒は、38.7%だった（昨年40.4%）。 ② 「契約トラブルと消費者保護制度について理解できた」と回答した生徒の割合は97%だった。 ③ 「持続可能な社会のあり方について考え、実際に行動に移すことができた」と回答した生徒の割合は77.1%だった。	B	B	国内の環境問題や社会課題に対する関心が75.7%あった。この数値は全国の高校生平均（日本総研調査）より21.7ポイント高いが、目標値には至らなかった。公民科学習内容への関心は83.2%だが、授業内容の理解だけで終わってしまい、自分の考えを生み出したたり社会問題に深く関わる姿勢を作り上げていかなければいけない。一方ネットニュースの発達と新聞の購読者の減少から高校生の新聞離れが著しく、年度当初83.9%の生徒が「新聞を読む習慣がない」と回答している（昨年77.2%）。授業で新聞を扱ったり、各種コンクールへの参加を通じて、習慣が無かった生徒の過半数に読む習慣がついたので、既存の取組を更に充実発展させていきたい。 今後も消費者教育として、成人年齢低下に伴い特に若者に増加しているトラブルを回避できるような知識と対処法を、しっかりと伝えていきたい。
	活動計画	活動計画の実施状況	(所見)		学校関係者の意見
	①-1 公民科の授業をとおして、政治のしくみとその意義、主権者として持つべき意識について理解させる。 ①-2 新聞発表を通して、社会に関心を持ち、自らの意見を他者に伝える力をつける ② 1学年を対象に外部講師による講演を行う。 ③ 「エシカル消費」について学習し、持続可	① 「公共」「政治経済」の授業で受講者全員に新聞を使った発表をさせたり、コンクールや検定への参加、講演会等を通じて、社会問題への関心を高めることができた。 ② 消費者教育として、金融の仕組みを学ぶ講座を1年生全クラスに対して1月に実施した。	新聞を使った発表を通じて、新聞を読む習慣のない生徒の53.8%に読む習慣をつけることができた。昨年の参議院議員選挙において、3年生有権者54名に調査したところ、投票率は71.1%で（昨年85.1%）県内有権者の投票率より21.2ポ		新聞を読む習慣のない若者が増えてきているが、人権意識を高めるため、また、社会全体の動きを捉えるためにも、新聞の果たす役割は大きいと考える。今後とも、新聞を用いて、政治経済や消費者教育に関する授業を展開していただきたい。

	能な社会の実現のための実践力を身につける。	③ 「エシカル消費」について学習し、不要衣類からリメイク小物を製作した。	イント高かった。 持続可能な社会の実現へ意識と実践力を高めた。	
--	-----------------------	--------------------------------------	------------------------------------	--

9 読書活動の推進

重点目標	評価指標（と活動計画）	評価			次年度への課題と今後の改善方策
		評価指標による達成度	評定	総合評価	
①生徒の望ましい読書習慣の形成を図る。	評価指標 ①-1 読書活動に学校として積極的に取り組んでいる割合 80%以上 ①-2 生徒一人あたりの年間図書貸出数（令和7年1月～12月） 5.5冊以上	評価指標による達成度 ①-1 生徒 74.7%（昨年74.5%） 保護者 82.4%（昨年82.0%） 教職員 100.0%（昨年92.2%） ①-2 4.4冊（昨年5.5冊）	B B	（評定） B	生徒の視野が広がるよう「ライブラリーニュース」で多様なジャンルの本を紹介し、ホームページで広報することができた。館内のPCで蔵書を検索できるシステムを導入し、活用している。今後、ICTの活用によって利便性も向上する事が期待されるが、予算も必要となってくるので関係部局とじっくり検討していきたい。タブレット端末の1人1台整備が読書離れにつながるよう、各教科からの課題の出し方に書籍利用を条件付ける等、各教科担任との連携を深めたい。
	活動計画 ①-1 ・読書週間やビブリオバトルを1・2学期に実施する。 ・学校ホームページに図書館情報を掲載する。 ・「ライブラリーニュース」を毎月発行する。 ①-2 読書会を1・2学期に実施する。	活動計画の実施状況 ①-1 1学期にビブリオバトル、2学期に新書を使ったイベント、1・2学期に読書週間を実施した。ライブラリーニュースを毎月発行し、図書関係の行事とともに学校ホームページに掲載した。 ①-2 読書会を実施し、読書案内を昼食時の校内放送で行った。	（所見） 読書活動に関するアンケートは、生徒の数値が少し下降したが、三者平均で目標を達成できた。1人あたりの貸出冊数は4.4冊で目標を達成できなかった。読書会や読書週間などは行事として定着し、教科学習でも図書館利用は進められているが、課題への取組にタブレット利用が定着してきたことが書籍離れの一因となっているのではないかと考える。		
学校関係者の意見					
生徒が図書館・読書に慣れ親しむ環境作りをお願いしたい。ネット環境を利用したビブリオバトルや読書会の実施を検討していただきたい。					

10 グローバルな活動につながる教育の推進

重点目標	評価指標（と活動計画）	評価			次年度への課題と今後の改善方策
		評価指標による達成度	評定	総合評価	
①国際交流等を通して異文化理解や国際協調の精神の涵養を図る。	評価指標 ①-1 国際交流・国際理解教育に積極的に取り組んでいる割合 95%以上 ①-2 国際理解・交流イベントへの参加延べ人数 400人以上	評価指標による達成度 ①-1 生徒 96.8%（昨年度97.1%） 保護者 98.4%（昨年度94.6%） 教職員 100%（昨年度100%） ①-2 約600人（予定） （昨年度1500人）	A A	（評定） A	「トビタテ！留学 JAPAN」などの留学奨学金の情報提供を積極的に行っていききたい。また留学経験者がその知見を広めていく機会を設け、活発な活動へと繋げていきたい。
	活動計画 ①-1 ・ホームページやポスター等を活用し、広報に努める。 ・幅広い観点から国際理解教育を推進するために、各課や各教科と連携した活動を企画する。 ①-2 世界の様々な地域への関心を高めるために、英語圏以外からも講師を招き、年間6回以上国際交流・理解イベントを開催	活動計画の実施状況 ①-1 海外研修や国際理解イベントなどについてホームページに記事を適宜アップロードした。また総合教育センターに本校の国際交流を紹介するポスターを3ヶ月間掲示した。人権教育課と連携し、市村人権教育研究大会で国際交流課作成のポスターを掲示した。	（所見） 国際交流イベントを開催したり留学生を受け入れた際に、生徒たちが海外の方にも積極的に話しかけている姿を見ると、彼らの異文化理解に役立っていると感じる。このような機会をきっかけに、今後さらに、彼らが主体的に国際的な課題に		
学校関係者の意見					
国際交流・国際理解教育に積極的に取り組んでいる。英語圏以外の地域とも交流できている点が特に評価できる。今後も多様な価値観の涵養に取り組んで欲しい。					

	する。	①-2 外部講師として、メキシコ、ロシア、ウクライナ、ニュージーランド、ブルキナファソの方々を迎えてイベントを開催した。ニュージーランドの講師からは先住民マオリ族について紹介いただくなど、多様性に富んだ内容となった。	取り組んだり、進路のオプションとして海外留学を視野に入れてくれるようになることを期待したい。
--	-----	--	--

11 開かれた学校づくりの推進

重点目標	評価指標（と活動計画）	評価			次年度への課題と今後の改善方針
①教育活動の積極的な公開を推進する。 ②ホームページ等を利用した積極的な情報発信を推進する。 ③地域社会、PTA、同窓会との連携を図る。	評価指標	評価指標による達成度	評定	総合評価	授業公開、中学生体験入学、学校説明会は中学生の進路選択の一助となっているので、内容等の検討をおこなった上で、次年度も同様に実施したい。 H Pについては、カテゴリーによって更新回数に差があるので、それぞれの担当者に更新依頼を行う。Classiによる情報提供についても、情報過多にならぬよう、引き続き時宜を得た配信に努めたい。
	① 公開授業と中学生体験入学の実施回数 合計5回 ② ホームページや連絡メール等が学校の情報を得たり、教育活動を理解するのに役立つ割合（保護者対象）80%以上 ③-1 学校運営協議会の開催回数3回 ③-2 中学生及びその保護者を対象とした学校説明会の開催回数 2回	① 休日の授業公開日を1回、平日の授業公開を3回、中学生体験入学1回、合計5回実施 ② 保護者 90.7%（昨年度76.8%） ③-1 学校運営協議会3回開催 ③-2 学校説明会2回開催	A A A A	（評定） A	
	活動計画	活動計画の実施状況	（所見） ほぼ計画通りに行事等を実施することができ、学校の教育活動を十分に周知することができた。平日の授業公開日は、どうしても参加者の数が限られる。保護者アンケートで「H P等が教育活動の理解に役立つ」という項目が、昨年度より大幅に増加した。こまめな配信の成果だと思われる。		学校関係者の意見 授業公開日の日程を、より多くの中学生に参加してもらえるように再考して欲しい。高校間の交流や地域社会とのつながりを促進することも検討していただきたい。

12 持続可能で信頼される学校づくりの推進

重点目標	評価指標（と活動計画）	評価			次年度への課題と今後の改善方針
①校務運営体制の効率化と充実を図る。 ②教職員のコンプライアンス意識の高揚を図る。 ③校内外の研修を通じて指導力の向上を図る。	評価指標	評価指標による達成度	評定	総合評価	生徒や保護者の満足度として、高い評価を得ているが、今後、個別最適な学び・協働的な学びをさらに深化させるための事例研究や情報共有の機会を増やしていく必要がある。教職員の能力や専門性を最大限に引き出す業務分担を推進することで、生徒・保護者のニーズや地域の期待に応えるとともに、発展的・効率的で持続可能な学校運営を進めていく。
	①-1 城東高校への満足度 90%以上 ①-2 教職員の職務の満足度 95%以上 ② 常にコンプライアンス意識を持って勤務している割合 100% ③ 校外での授業力向上に向けた研修参加人数 10名以上	①-1 生徒 90.4% 保護者 95.0% ①-2 教職員 97.4% ② 教職員 100% ③ 「教育課程研究会」をはじめ教科の授業力向上に向けた研修会等に参加。 20名以上	A A A A	（評定） A	
	活動計画	活動計画の実施状況	（所見）		

<p>①-1 学校教育活動及び部活動の充実 ①-2 業務改善の推進 ② 職員全体でのコンプライアンス研修会を3回以上実施し、コンプライアンス意識の向上を図る。 ③ 県教委計画訪問等も含め、教員研修・研究授業を計画的に配置し、各教科1回以上ICTを用いた研究授業を行う。 ・外部機関等の授業力向上研修に参加する。</p>	<p>①-1 学校教育活動については、オンラインを活用しながら効果的に実施することで、生徒や保護者のニーズに応える教育活動及び部活動の充実につなげた。 ①-2 職員朝会や職員会議の資料のペーパーレス化、生徒・保護者への全体連絡や配布資料をClassiにて配信、考査後の5分短縮4限授業の実施など、働き方改革を推進した。 ② 職員会議や職員朝会の機会を捉えて15回実施し、コンプライアンス意識の向上を図った。 ③ 県教委計画訪問を含め、各教科2回以上ICTを用いた研究授業・公開授業を行った。また、オンライン研修の日常化が進んだこともあり、外部研修への参加も増えた。</p>	<p>コロナ禍で培った創意工夫ある活動様式が日常化し、活発な教育活動の展開ができています。教育の質の維持・向上の視点での業務改善をさらに推進していく必要がある。 コンプライアンス意識については、今後も100%を維持できるよう機会を捉え研修を実施し、知識の更新と意識の向上を図っていく。 ICTを活用した授業が定着してきている。効果的な活用に向けてさらに取り組みを進めていく。</p>	<p>学校関係者の意見</p> <p>教職員の努力や姿勢は高く評価できる。これからも様々な課題が出てくると思うが、生徒・保護者の高い満足度を維持できるよう努めて欲しい。</p>
---	---	---	--